

# 製本のススメ

Vol. 78

暑さにもだいが慣れてきたとはいえ、やはり 30 度を超えると厳しいですね。昔は真夏でも 30 度越える日は少なかったのに、やはり温暖化のせいでしょうか。経済成長も大切ですが、スローライフも悪くないのではと思うこの頃。

今回は**綴じ方選びのポイント**の話し（3 回目）

無線・中綴・上製・伝票など製本様式には、それぞれに**風格**があります。作る冊子の内容や用途によって加工方法はおよそ決まってくるので、それぞれの特性や束の厚みによって起こる問題点を交えて進めていきましょう。

## 伝 票

風格という言葉にはあまり影響がないかと思われそうですが、伝票といっても事務的に使う作業伝票から、領収書・便箋などもこの仲間です。特に領収書は扱う金額によっては、少々貫禄がないと…

さて、複写伝票では上葉と下葉の印刷位置が絶対に同じでなくてはなりません。ここで大切なのは**針・クワエ**です。**この2点がしっかりしていれば**、上下の印刷はピタリです。例え紙の大きさが上下で違っていても、伝票加工では大きな問題になりません。（この点は折加工と全く違いますね）

しかし、針クワエが合っても、用紙自体に変形が起こりやすく、特に大判で印刷する事は、**針尻側の印刷面が合いません**。A4伝票ならば、4面付き程度が限界と思われまます。金額欄など上下で1桁違ってしまいう事も、日常茶飯事ですので気をつけてください。

さて、時折『天糊』なのに、天に切り取りミシンという指示があり、何故？と用途に疑問を抱きます。このミシン入れは、耳から必要な枚数を切り離し、控えを耳に綴じ残すために使われます。どのような使われ方をするのか、エンドユーザーと打ち合わせをしておかないと、無駄な費用が発生する事もしばしばあります。



## Tea break

日本の食生活に欠かせない食材に大根があります。煮ても干しても、生でも美味しいのですが、大根って白い色素があるのでは無いそうです。大根の内部には小さな孔があり、表面には凸凹が無数にあるそうで、ここに光があたり乱反射することで白く見えているとか。煮ると水分が孔や凹凸の中に入り乱反射が無くなるので半透明に見えるそうです。ちなみに曇りガラスのザラザラ面を濡らすと、光が通り易くなって半透明になると原理は同じだそうです。

by (株) 井関製本